



NO. 211

2011. 1. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会

(別名 大阪市手をつなぐ親の会)

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 笹野井 庸夫

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

その人らしい暮らしを実現するために
～大阪市の施策と市育成会の取り組みについて
PART5～

福島第二育成園で感じていること

園長 藤原 勇治

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

昨年4月に福島育成園に異動になり、私自身には今までにない、地域の方とのお付き合いが増えました。つばさ工舎海老江建設時から、特に地域の方々にはたいへんご心配をおかけしました。数多くの話し合いを持っていただき、ご理解・ご協力をいただきながら、少しずつ地域の仲間としてお付き合いいただけるようになってきたこれまでの経過につきましては、地域の関係各位にあらためて厚くお礼申し上げますと共に、歴代の施設長はじめ職員、ならびに法人等の関係者に最大の敬意を払います。

海老江東地域では、いろいろな機会に声をかけていただけます。毎月行われるふれあいサロンでは、入所のメンバーが外食・地域の方との交流の場をいただくと共に、自主製品の販売をさせていただきます。道路を飾る花の手入れなどをしたり、季節毎の行事にお誘いいただいたりとかまやかにご配慮くださいます。また、秋に行うつばさ祭りには、大勢の方にボランティアとしてお手伝い等ご協力いただいたり、参加者として施設にお越しいただいたりとかさまざまな形でご支援くださいました。そのような機会でも、いろいろとお話を伺うときにいつも感じることは、地域の方から見ると、我々の施設は入所も通所も関係ない障害のある方の支援施設「つばさ工舎海老江」ということなのです。利用されている方のサポートをしっかりとしと激励いただくことも少なくありません。そのような時にハッとすることです。

施設の中では頻りに通所とか入所とかという言葉が使われます。たしかにつばさ工舎の中には二つの種類の施設が併設されていて、それぞれの施設に利用者や職員として所属する人たちがいるので、その言葉自体にはまちがいはありません。でも、地域のひととの会話をヒントにして少し違った見方をしてみると、奇妙な部分を感じます。知的障害があることで、さまざまな暮らしづらさのある人たちとご家族を支援することが施設の一番の使命であるはずなのに、そのことよりも、この施設はこうで、この施設の利用者はこう支える、と施設や職員の主義主張が先にありすぎるのです。お互いが同じ方を向いて仕事をしているはずなのに、なんとなくばらばらに動いてしまっているような、見えない壁をつくってしまっているように感じるのです。それぞれの施設のもつ機能を、必要に応じてもっと柔軟に利用できれば、もっと有効な利用者支援ができるのに…。更には、施設の利用者やご家族だけでなく、地域に暮らす障害を持つ人たち対しても社会資源としての役割を果たしていくべきなのに…。地域への移行や、地域での安心で快適な暮らしを支えていくために、施設が地域で果たすべき役割はとても重要で大きいと考えるからです。

本来、通所・入所という施設の形態は、いろいろな生活の方がいらっしやって、そのいろいろな生活を支える方法の違いでしかありません。目指す所は全て、障害があっても、安心して、気持ちよく、自分らしく暮らしていくことができるように支援すること

あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます



2011年

社会福祉法人大阪市知的障害者育成会

理事長 笹野井 庸夫

役員 一同